



WHO経穴部位国際標準化つくば公式会議を受けて

作業部会委員は、昨年11月にWHO経穴部位国際標準化つくば公式会議で決定された361穴の英文に対し、日本語訳作業のため1月6～8日の3日間、合宿を行うことになった。

本合宿の目的は、WHO刊行物の純粋な日本語訳版の作成であり、年度末に予定されている「WHO経穴部位標準化決定の報告会」(仮称)の資料となるものである。第二次日本経穴委員会としては、これ以外に(第一次)日本経穴委員会が発刊した『標準経穴学』のような、詳細な事項を掲載した刊行物を2007年度中に発刊予定であるが、発刊時期としては今回の報告会が行われた後の作業となるので未定である。

混迷する英語訳作業

合宿の事前作業として、昨年末までに各委員が担当した経穴の日本語訳作業を行い、メールでその内容を確認し、それぞれのチェックを行っていた。今回は、用語の訳し方や表現方法等の統一を行い、一定の共通認識を持ったなかで作業を進める予定であったが、必ずしも作業は順調に進まず、その都度検討を繰り返すこととなった。これまでの一連の作業を行うにあたり、

我々は中国語草案を基にして日本語案を作成していた。WHO公式会議の資料も中国語草案を基に英語で作成され、英語で検討し、決定されたものである。その英語を日本語に訳す時、中国語の文章から始まったにもかかわらず、かなり異なったニュアンスの言葉に置き換わっているのである。

これは訳文を作成する時に、訳す側の国の習慣や文法上の特徴で、単語が入れ替わったり、文章の並びが変わったりするためだと思われる。WHO会議に参加した方々は、少なくとも共通の認識を有しているわけであるが、その我々でも一つの文章を訳す時に、それぞれの文化や言語の特徴から微妙なズレが出てしまうのである。長い歴史の中で、経穴部位にズレが生じるのも無理もないことだと改めて感じた。今回の日本語訳は英語に忠実に逐語訳に近い形で行うことを原則にしたが、そうすると日本語に馴染まない表現も出てくる。

馴染めない日本語訳

例えば、偏歴(LI6)穴の注の英語では、“Note: LI6 is located at the junction of the lower 1/4 and upper 3/4 of the line connecting LI5 with LI11.”と記載されている。「偏歴(LI6)は、陽谿(LI5)と曲池(LI11)を結ぶ線上で、下から1/4と上

から3/4の交点にある。」と訳すのであるが、下から1/4と上から3/4の交点という表現はなかなか馴染めない。下から1/4の場所が取れるということは、同時に3/4を取っていることになるのだからあえて表示する必要はないと思うのだが、そうではないらしい。

今回は逐語訳とするが、“Lower 1/4 and upper 3/4”やこれと同じ様な表現を用いた文章を、第二次日本経穴委員会が発刊する本や教科書においてどのように表現するかは、課題の1つである。

細かく細かくチェック

英語・中国語を比較しながら日本語訳を行っている、議事録作成時のケアレスミスにも気付く。一穴ごとに検討しているときには気付かないが、全体を見渡して検討すると同じ意味でも異なる単語が出てきてしまい、異なった表現となってしまうことがある。

例えば、上肢において方向を示すのに“proximal と superior”と2つの表現が使われていたりする。“proximal”は「近位」であり、“superior to”は「上方」である。これらを統一する必要がある。また経穴部位を標記する時に、まず区分標記するのであるが、ガイドラインでは僧帽筋外縁を境に前頸部と後頸部に分けている。人迎 (ST9) も扶突 (LI18) も前頸部に位置する経穴であるが、英語区分標記では人迎 (ST9) は“in the anterior region of the neck”とあり、扶突 (LI18) は“on the anterior aspect of the neck”とあり、やはり標記を統一する必要がある。全体を確認したところ手陽明大腸経だけが“on … aspect of”となっていた。まだまだ作業は完了していないが、これらのミスをもと

めてWHOへ訂正を申し出る予定である。

日本語訳の統一にも奮闘

英語ばかりではない。日本語の統一も大変である。例えば、中府 (LU1) では“lateral to”が一文の中に2度出てきて、外方と外側と両方の訳がある。その言葉の使い分けが必要である。外縁か外端か外側か外方か？ 英語で“lateral end”は「外端」、*“lateral border”*は「外縁」、*“just lateral border to”*は「外側縁」と訳した。“lateral to”では、その示している部位がエリア (例えば骨や筋) 内のそとがわであれば「外側」、エリア外で離れている時は「外方」とした。距離を示す分寸を表す時は「外方」を用い、その他の方位を示す時はガイドラインに従うこととした。また中府 (LU1) において、その部位は肋骨間か肋間か肋骨間隙か肋間隙か？ 胸背部における経穴の標記統一が必要である。

現在は、このように日本語訳を行いながら、英語標記や日本語標記の統一等の作業も同時に行っているのである。今回はほんの少ししか紹介できなかったが、このような問題が次々と出てくる。3月の報告会の資料印刷に間に合わせるため必死であり、再度合宿を行う予定である。

最後ではあるが、本年3月31日14時から上記の報告会を行う (会場は未定)。主として学校関係者、教育関係者を対象として、部位の異なった経穴を中心に説明を行う予定だ。また一般の鍼灸師等も参加可能 (事前登録の予定) である。一般参加の方にも、質問をしていただく時間を設ける予定なので、是非とも多くの方に参加して頂き、ご意見を頂きたい。

(アコール鍼灸治療院

さいたま市大宮区宮町2-3-1 第2大矢部ビル2F)